

観覧日：かんらんび 年 月 日 学校 年 氏名：

## 縄文人は世界をどのように感じていたのだろうか？ －縄文土器を鑑賞して－

### 縄文土器の印象

山梨県で縄文時代の遺跡がもっとも増え、文化が盛んになるのは、約4千5百年前の中期です。この中期の山梨の土器は、列島の縄文文化全体の中でも、特に立体的で、装飾的な文様をもち、縄文人のエネルギーの高まりを表しています。縄文土器を見た印象をまとめてみよう。



.....
.....
.....
.....
.....

参考 岡本太郎が発見した「いやったらしい美しさ」

はじめて縄文土器を突きつけられたら、その奇怪きがいさにドキッとしてしまう。どこの野蛮人やばんじんが作ったんだろう。ものすごい、へんてこなものだ、と思うにちがいありません。

それこそじつは日本人、正真正銘しょうしんしょうめいのわれわれの祖先が作りだしたもので、大事な文化の遺産いさんなのだと、と聞くと、二度びっくり。 . . .

じっさい、不可思議な美観びかんです。荒々しい不協和音ふまうわおんがうなりをたてるような形態けいし、紋様もんよう。そのすさまじさに圧倒される。

はげしく追いかぶさり、重なりあって、下降し、旋回する隆線紋りゅうせんもん（粘土を紐ねんどのようにして土器の外がわにはりつけ、紋様をえがいたもの）。これでもかこれでもかと、執拗しつようにせまる緊張感きんちやうかん。しかも純粹に透った神経のするどさ。

とくに爛熟らんじゆくしたこの文化の中期の美観のすさまじさは、息がつまるようです。つねづね芸術の本質は超自然的なはげしさだと言って、いやったらしさを主張する私さえ、思わず叫びたくなる凄美せいびみです。岡本太郎『縄文土器－民族の生命力』

観覧日：かんらんび 年 月 日 学校 年 氏名：

## 縄文人は世界をどのように感じていたのだろうか？ －縄文土器を鑑賞して－

### 縄文土器の印象

山梨県で縄文時代の遺跡がもっとも増え、文化が盛んになるのは、約4千5百年前の中期です。この中期の山梨の土器は、列島の縄文文化全体の中でも、特に立体的で、装飾的な文様をもち、縄文人のエネルギーの高まりを表しています。縄文土器を見た印象をまとめてみよう。



よくこんな複雑な模様をつけたものだ。など。

参考 岡本太郎が発見した「いやったらしい美しさ」

はじめて縄文土器を突きつけられたら、その奇怪きがいさにドキッとしてしまう。どこの野蛮人やばんじんが作ったんだろう。ものすごい、へんてこなものだ、と思うにちがいありません。

それこそじつは日本人、正真正銘しょうしんしょうめいのわれわれの祖先が作りだしたもので、大事な文化の遺産いさんなのだと、と聞くと、二度びっくり。 . . .

じっさい、不可思議な美観びかんです。荒々しい不協和音ふまうわおんがうなりをたてるような形態けいし、紋様もんよう。そのすさまじさに圧倒される。

はげしく追いかぶさり、重なりあって、下降し、旋回する隆線紋りゅうせんもん（粘土を紐ねんどのようにして土器の外がわにはりつけ、紋様をえがいたもの）。これでもかこれでもかと、執拗しつようにせまる緊張感きんちやうかん。しかも純粹に透った神経のするどさ。

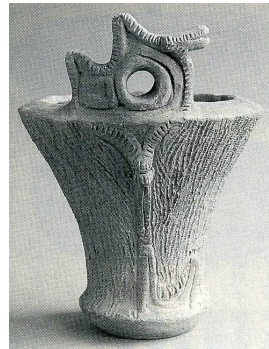
とくに爛熟らんじゆくしたこの文化の中期の美観のすさまじさは、息がつまるようです。つねづね芸術の本質は超自然的なはげしさだと言って、いやったらしさを主張する私さえ、思わず叫びたくなる凄美せいびみです。岡本太郎『縄文土器－民族の生命力』

観覧日：かんらんび 年 月 日 学校 年 氏名：

## 縄文土器に描かれた動物たち

縄文土器の造形は抽象的で、具体的な像は意外と少ない。しかも写実的な像は動物にかぎられ、花や風景を描くことはなかった。映像に出てくる土器をよく観察して、描かれている動物の名前を二つ書きなさい。また、その動物が描かれた理由を推測してみよう。

動物の名前	描かれた理由



縄文土器についてもっと詳しく知りたいなら、考古博物館や釈迦堂遺跡博物館も訪ねてみよう。



参考 動物とその造形

イノシシはシカとともに縄文人のタンパク質源としてもっとも重要な食料であった。獣骨の出土する遺跡からは必ず両者、あるいはどちらか一方が出るといっていいほどである。貝塚データベースによるとイノシシを出土する遺跡はもっとも多く、その数は867に達している。…八ヶ岳南麓にある山梨県金生遺跡は、…住居址の傍らにつくられた土壌から138体のイノシシの骨が火をうけて灰白色に変色した状態で発見されている。

ヘビは食料として縄文人に積極的に利用されたあとはなく、貝塚などで骨が出土した例もいたって少ない。しかし、土器などの装飾には写実的な像があらわれ、縄文人の精神生活に深くかかわっていたことを感じさせる。

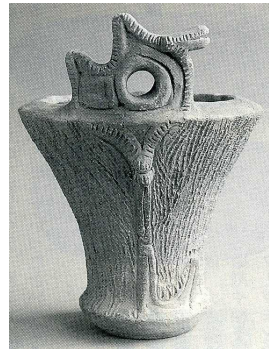
小山修三『縄文学への道』

観覧日：かんらんび 年 月 日 学校 年 氏名：

## 縄文土器に描かれた動物たち

縄文土器の造形は抽象的で、具体的な像は意外と少ない。しかも写実的な像は動物にかぎられ、花や風景を描くことはなかった。映像に出てくる土器をよく観察して、描かれている動物の名前を二つ書きなさい。また、その動物が描かれた理由を推測してみよう。

動物の名前	描かれた理由
ヘビ	どんなに過酷な環境のなかでも、脱皮を繰り返しながら、成長し、繁殖するヘビの生命力に、縄文人は“カミ”を感じたから。など。
イノシシ	イノシシは、縄文人のタンパク質源として、自分たちを生かしてくれる大切な動物であるとともに、一度に多くの子を産むイノシシの繁殖力や生命力にあやかろうとしたため。など。



縄文土器についてもっと詳しく知りたいなら、考古博物館や釈迦堂遺跡博物館も訪ねてみよう。



参考 動物とその造形

イノシシはシカとともに縄文人のタンパク質源としてもっとも重要な食料であった。獣骨の出土する遺跡からは必ず両者、あるいはどちらか一方が出るといいほどである。貝塚データベースによるとイノシシを出土する遺跡はもっとも多く、その数は867に達している。…八ヶ岳南麓にある山梨県金生遺跡は、…住居址の傍らにつくられた土壌から138体のイノシシの骨が火をうけて灰白色に変色した状態で発見されている。

ヘビは食料として縄文人に積極的に利用されたあとはなく、貝塚などで骨が出土した例もいたって少ない。しかし、土器などの装飾には写実的な像があらわれ、縄文人の精神生活に深くかかわっていたことを感じさせる。

小山修三『縄文学への道』



観覧日： 年 月 日 学校 年 氏名：

## 縄文のカミとしてのヘビ

縄文人はヘビにどのような意味づけをしていたのだろうか。・・・

エリアーデはヘビは秩序（コスモス）に対立するカオス（混沌）の象徴だったとのべている。手足がなく、うねり、物陰を動くヘビの姿は形を定めることなく、木の根のからまり、さやぐ草むら、波動する水面などにその虚像を見ることはわれわれも経験することである。それこそアニミズム（精霊信仰）における「雰囲気」というべきものであろう。・・・

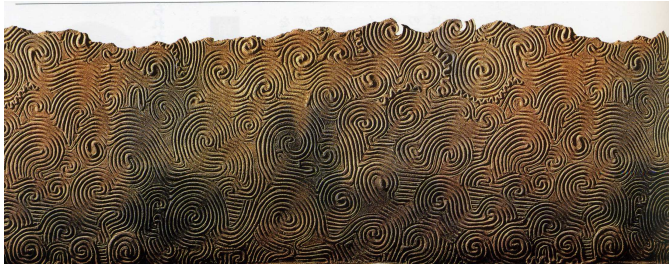
日本の民間信仰にはヘビを対象とするものがひろく認められる。家や穀倉に住みついて守神となるもの、池、谷、草原などの主であるもの、人や家系につくものなど枚挙にいとまがないほどである。・・・

このような日本の歴史のなかでつねに見えかくれしているヘビの姿は、農耕がはじまる以前の縄文時代から連続しているようである。

ヘビは縄文人の精神世界の基層に定着していた。そのためヘビの雰囲気は縄文人の造形のなかに濃密にあらわれている。ヘビの姿は中期のある時期、突然具象的な姿となって登場したが、ふたたび抽象紋の闇のなかに消えていった。

アニミズム的な縄文人の信仰の世界のなかでカミは姿を定めない。とくにヒトとしてはついにその顔を見せることはなかった。そんななかでヘビは素顔のみせた唯一の縄文のカミだといえるだろう。 小山修三『縄文学への道』

渦巻文は何を表現しているのだろう



渦巻文土器展開写真  
笛吹市桂野遺跡

縄文人は世界をどのように感じていたのだろうか。

アニミズムとは、岩や山などあらゆるモノにアニマ（魂や命）を感じる世界の捉え方をいうが、縄文人は世界をどのように感じていたのか、まとめてみよう。


観覧日： 年 月 日 学校 年 氏名：

## 縄文のカミとしてのヘビ

縄文人はヘビにどのような意味づけをしていたのだろうか。・・・

エリアーデはヘビは秩序（コスモス）に対立するカオス（混沌）の象徴だったとのべている。手足がなく，うねり，物陰を動くヘビの姿は形を定めることなく，木の根のからまり，さやぐ草むら，波動する水面などにその虚像を見ることはわれわれも経験することである。それこそアニミズム（精霊信仰）における「雰囲気」というべきものであろう。・・・

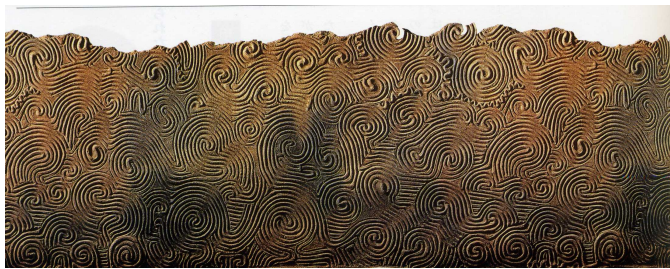
日本の民間信仰にはヘビを対象とするものがひろく認められる。家や穀倉に住みついて守神となるもの，池，谷，草原などの主であるもの，人や家系につくものなど枚挙にいとまがないほどである。・・・

このような日本の歴史のなかでつねに見えかくれしているヘビの姿は，農耕がはじまる以前の縄文時代から連続しているようである。

ヘビは縄文人の精神世界の基層に定着していた。そのためヘビの雰囲気は縄文人の造形のなかに濃密にあらわれている。ヘビの姿は中期のある時期，突然具象的な姿となって登場したが，ふたたび抽象紋の闇のなかに消えていった。

アニミズム的な縄文人の信仰の世界のなかでカミは姿を定めない。とくにヒトとしてはついにその顔をみせることはなかった。そんななかでヘビは素顔をみせた唯一の縄文のカミだといえるだろう。 小山修三『縄文学への道』

渦巻文は何を表現しているのだろうか



渦巻文土器展開写真  
笛吹市桂野遺跡

縄文人は世界をどのように感じていたのだろうか。

アニミズムとは，岩や山などあらゆるモノにアニマ（魂や命）を感じる世界の捉え方をいうが，縄文人は世界をどのように感じていたのか，まとめてみよう。

文字を持たない縄文人の世界観を知る主たる史料の一つは，縄文土器である。

激しく追いかぶさり，重なりあって，下降し，旋回する隆線紋を見ると，縄文人が，月や星，森や湖，花や岩石などこの世に存在するすべてのモノがアニマ（魂や命）をもって，交流し，流動する“いのち溢れる世界”を感じていたことが推測できる。 など。